

平成25年度事業報告

公益財団法人三菱経済研究所

1. 内外経済の概況

世界経済は、米国や日本を中心とする先進国景気の回復持続に加え、昨年来、鈍化傾向にあったインドや中国など主要新興国の景気下げ止まり等もあって、全体としては緩やかな回復基調を辿りつつある。

米国では、家計部門のバランスシート調整がさらに進展、金利低下に伴う住宅投資や個人消費の堅調等を背景に景気拡大の裾野は一段と広がりを見せている。新興国経済も、米国の量的緩和縮小を受けた投機マネーの動きに翻弄される国も一部にみられるものの、拡大基調そのものは維持している。また、政府債務危機の影響で長期に亘り停滞の続いていた欧州経済も、微弱とはいえプラス成長軌道へと復帰した。

わが国は、安倍政権による積極的な財政金融政策、いわゆる“アベノミクス”効果により、この1年余り円安や株高が急ピッチで進展、資産効果も手伝って、景気は財政・家計主導の急回復を遂げた。ただ、円安にも関わらず輸出が一向に増えない中、原発代替エネルギーの輸入急増もあって、国際収支は歴史的な悪化を余儀なくされている。企業は、設備投資の増額には慎重な姿勢を崩しておらず、この4月に実施された消費増税の影響も懸念されるなど、景気の先行きには不透明感も漂い始めている。

金融マーケットでは、欧州中央銀行やEU等による支援もあって、欧州債務危機問題は現状小康をみせている。しかし不良債権の増加が止まない中、金融システム健全化への対応は道半ばで、同問題は依然マーケットの潜在的な火種として燻り続けているほか、米国FRBの量的緩和縮小の動きもリスク要因の一つとみられている。

国際政治情勢は、ウクライナ情勢の緊迫化や、海洋進出の動きを強める中国、緊張の続く中東・東アジア情勢など、地政学的リスクが、近年世界的な広がりを見せ始めている。

世界経済は、この先も、米国、中国、そしてロシアという「三極」の下、波乱含みの不安定な展開が続く公算が大きいものと予想される。

2. 事業活動

(1) 経済研究部門

当部門は、引き続き、①内外経済動向のタイムリーな分析と、②基礎研究の充実を二本柱として活動を続けてきた。とりわけ、基礎研究については、国内外での博士号取得者を研究員として積極的に登用し、学術研究部門としての体制充実とレベルの向上に努めた。また、内外経済動向の分析についても、米国や欧州を中心とする世界経済の動向分析や国際金融情勢など、わが国経済が直面する重要なテーマを鋭意取り上げた。こうした研究活動の成果は、下記刊行物の形で広く一般の利用に供している。

①月刊誌

「経済の進路」

B5判 22頁

国内及び海外経済のポイントや問題点について分析し、それを平易かつ簡潔に紹介するもの。発行部数は毎号約21,000部。

「MONTHLY CIRCULAR—Survey of Economics Conditions in Japan—」

(英文経済月報)

変形 A4 判 12 頁

大正 12 年の創刊。海外での日本経済に対する理解と認識を深めてもらうことを目的に、国内経済に関する分析と解説を英文で紹介するもの。海外 40 数カ国の政府機関や中央銀行、商業銀行に送付されており、発行部数は毎号約 2,400 部。

②基礎研究書：計 2 点刊行

「新興国・開発途上国における最低賃金法の雇用等への影響」

2013 年 9 月 5 日刊行 (A5 判 53 頁)

元研究員 山田 浩之著

新興国や開発途上国での最低賃金法の雇用へのインパクトに関する最新理論を概観した上で、特定国を対象とした実証分析を行い、政策的含意を導いたもの。

「準線形環境におけるメカニズムデザイン」

2014 年 1 月 20 日刊行 (A5 判 68 頁)

元研究員 坂井 豊貴著

ゲーム理論の先端分野の一つであるメカニズムデザインの基本概念を整理し、その具体的応用例を通じて、最適な集団的意思決定に繋がる理論モデルを論じたもの。

なお、研究部門が所管する資料室では、内外の経済関係の図書や資料を所蔵し、業務の参考として一般の利用にも供しているが、年度末の保有点数は 29,828 点で、前期末比 53 点増加している。

(2) 史料部門

三菱史料館では、三菱に関する史料の収集・保管とともに、三菱および日本の産業発展史の調査・研究を行っている。また、広く一般の利用に供するため保管史料の整理及びデータの充実を図ると共に、三菱の歴史や経営理念について理解が深まるよう活動している。

① 資料収集に努め、平成 26 年 3 月末の収蔵史料は 61,640 点となり、前期末比 1,801 点増加した。

収蔵史料の閲覧用マイクロフィッシュ撮影を順次実施している(史料の劣化対策にもなる)。当年度は 822 点の撮影を実施した結果、平成 26 年 3 月末の撮影済史料数は 21,344 点となった。

② 当研究所研究員等の執筆による論文や史料紹介を収録した「三菱史料館論集」第 15 号を平成 26 年 3 月に刊行し、内外の大学や研究機関に贈呈した。

第 15 号には論文等 9 本(論文 7、研究ノート 1、史料紹介 1)を掲載した。

③ 三菱の歴史を紹介した冊子「三菱のあゆみ」や三菱四代社長の生涯と事業をまとめた「小伝」の頒布、各種研修を通じて、三菱および日本の産業発展史に関する知識の普及に努めた。

④当期の来館者総数は4,643名(前期比△230名)。

内訳は一般見学者3,221名、研修見学者が1,194名、研究者等の史料閲覧者が228名(閲覧史料点数は1,245点)。

⑤外部からの問合せ(レファレンス)が743件。

広く一般を含め企業・学校関係者等の見学対応やマスコミへの取材協力に積極的に対応した。

3. 維持会員

平成26年3月末の維持会員数は336件である。(前期末比2件増)

平成25年度においては、下記のとおり維持会員懇談会を開催した。

7月9日 会場：東京丸の内「銀行倶楽部」

演題：『『大胆な金融緩和』の行方—アベノミクスを考える』

講師：慶應義塾大学経済学部 教授 池尾 和人 氏

また、昨年度に引き続き名古屋と大阪で維持会員懇談会を開催した。

12月2日 会場：名古屋市「三菱東京UFJ銀行名古屋ビル」

テーマ：「2014年の内外経済展望」

第1部 海外経済—大きな転換点を迎えるグローバル経済—

第2部 日本経済—アベノミクスの光と影—

報告者：第1部 三菱東京UFJ銀行

企画部経済調査室長 松宮 基夫 氏

第2部 当研究所 青木 透常務理事

12月6日 会場：大阪市「三菱東京UFJ銀行大阪東銀ビル」

テーマ：「2014年の内外経済展望」

第1部 海外経済—大きな転換点を迎えるグローバル経済—

第2部 日本経済—アベノミクスの光と影—

報告者：第1部 三菱東京UFJ銀行

企画部経済調査室長 松宮 基夫 氏

第2部 当研究所 青木 透常務理事

4. 庶務事項

(1) 評議員会

第3回評議員会(平成25年6月19日開催)

議案 理事10名選任の件

原案通り承認可決

監事2名選任の件

原案通り承認可決

報告事項 平成24年度事業報告並びに財務諸表及び同附属明細書並びに財産目録の件

(2)理事会

第5回理事会（平成25年5月21日みなし決議）

議案 (1)平成24年度事業報告並びに財務諸表及び同附属明細書並びに財産目録承認並びに特定資産への繰入れ及び取崩し承認の件

原案通り承認可決

(2)評議員会招集の件

平成25年6月19日三菱クラブに招集し開催することを承認可決

(3)理事候補者選任の件

本年の定時評議員会をもって理事10名が任期満了となり理事選任が必要となるので10名の候補者を選任した。

(4)監事候補者選任の件

本年の定時評議員会をもって監事2名が任期満了となり監事選任が必要となるので2名の候補者を選任した。

報告事項 (1)就業規則等の労働基準監督署への届出

(2)職務執行状況の報告

第6回理事会（平成25年6月19日開催）

議案 (1)理事長(代表理事)選任の件

三木繁光氏を理事長に再選

原案通り承認可決

(2)副理事長(代表理事)選任の件

吉峯 寛氏を副理事長に新たに選任

原案通り承認可決

(3)常務理事選任の件

青木 透氏を再選し、西田純隆氏を新たに選任

原案通り承認可決

第7回理事会（平成26年3月24日開催）

議案 平成26年度事業計画及び収支予算書並びに特定資産への繰入れ及び取崩し承認の件

原案通り承認可決

平成26年度資金調達及び設備投資の件

原案通り承認可決

報告事項 職務執行状況の報告

(3)官庁関係事項

平成25年 6月25日 内閣府へ平成24年度事業報告並びに財務諸表及び同附属明細書並びに財産目録を提出(電子申請)

平成25年 7月16日 内閣府へ代表理事の変更届出書を提出(電子申請)

平成26年 3月27日 内閣府へ平成25年度事業計画及び収支予算書を提出(電子申請)

5. 役員・評議員・職員（平成26年3月31日現在）

(1) 役員

理事（10名）

理事長 三木 繁光

副理事長 吉 峯 寛

常務理事 西 田 純隆

常務理事 青 木 透

理事

石 村 和彦 岩 井 克人 鈴木 良隆 西 川 章

樋 口 公啓 谷 野 剛

監事（2名）

関 口 憲一 高 木 茂

(2) 評議員（10名）

荒 蒔 康一郎 石 井 寛治 内 海 暎郎 大 山 道廣

草 刈 隆郎 佐々木 幹夫 下 村 節宏 正 野 寛治

西 村 敏行 増 田 信行

(3) 職員

常 勤 12名

非常勤 5名